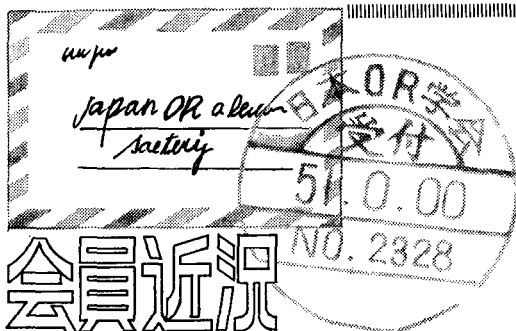




足利工業大学
経営工学教室 玄 光男

ORカリキュラム特集を期待 最近少しばかり興味を注いでいるものとして、コンピュータネットワークやコンピュータシステムなどの性能評価を定量的に取りあつかう最適化問題がある。そこには評価すべきシステムの背景を把握し、さらに種々のOR的な手法の適用や有効な計算アルゴリズムの開発が要求される。この有効な計算アルゴリズムが最近ますます重要視されているようでもあり、そのようなことも含めて数値解析の分野で奥野監修・玄著『数値計算アルゴリズム入門』が4月刊行される。

IEEE-CS の Comp. Mag. 12月号('75)の“教育特集”のようなものを、“OR関係のカリキュラム特集”として本誌に期待したいものである。また学生会員の活動、たとえば電通学会学生会員による最近トピックスの講演会や卒研発表会、Asso. for Comp. Mach. の学生会員による発表の中から、1位から3位までの論文を Comm. of ACMに掲載等のようなものを通して、本学会のたゆまぬ成長を望み、学部・院生たちに IEEE や ACM の学生員よりも本学会に推奨できるような魅力ある学会を期待したいものである。

日立製作所
システム開発研究所 小澤紀美子

新たな視点を模索中 現在主として、新製品の需要予測モデルの開発を進めております。市場に出回っていない製品を対象としていますので、その製品の、社会へもたらすインパクトも評価した形で取り入れたいと考えております。

一方、入社以来取り組んでおりました都市問題へのORあるいはSAの適用については、具体的な研究対象は現在ありません。しかしこの分野では、モデルの開発が一種の流行となっており、モデルが完成すれば問題が解決できるといった感が強いので、私自身の過去の研究の反省を含めて、複雑な構造を持つ都市問題解決へのOR・SA手法導入の可能性と限界を基本的に再検討し、都市行政の場へのOR・SAの定着化のための新たな視点を模索しているこのごろです。

農林省林業試験場
経営部測定研究室 天野 正博

林業でのOR 森林は1度伐採すれば再び利用できる大きさに育てるまでに40～50年要します。現在の需要だけにとらわれてどんどん伐採していけば、いつか山に幼齢木ばかりで成熟した木がなくなるといった事態が生じるわけです。ですから毎年どれだけの森林を伐採するかは、現在の需要と同時に数十年先の木材需給関係も考慮に入れてきめなければなりません。しかも林木は米とか麦のように実ったら収穫というわけにはいかず、用途に応じて異なる太さのものが要求されるので、収穫時期は単純にはきまりません。このように一般の工場における生産計画とは質的にかなり異なった林業での生産計画においても、ORがうまく活用できるかどうかいろいろ試しているところです。

福島大学
経済学部経営学科 星野 珙二

国内留学を契機に 福大へ赴任して情報処理を担当しはじめてから、この4月でちょうど2年が経過したところです。3年目の授業内容をどのようにしようかと思案していたところへ、運よく情報処理関係内地研究の申請が本省を通った旨、内報が飛び込んできました。正式通知がきたなら、本年度は東工大の総合理工学研究科システム科学研究室へお世話になり、システム理論について深く掘り下げたいと考えております。

現在まで主として大学院で専攻した生産管理を研究対象の中心として、在庫管理やスケジューリング問題等に興味を持ってきました。また同時に研究手法としては、電子計算機と結びついたシステムの特性解析一般に関心を持ってきました。とくにシミュレーション言語にも興

味があります。しかし国内留学を契機として、有意義な範囲で、研究対象を一般システムへと拡張してみたいと考えています。

慶応義塾大学
工学部計測工学科 志水 清孝

実際問題に学ぶ われわれのシステム制御研究室では、システム最適化理論と最適制御の研究を行なっている。最近のテーマには、分権的な階層制システムにおける意思決定と情報伝達の構造ならびに最適化問題として定式化した場合の計算方法がある。大規模な複合システムの設計、計画、制御に関して計算方法の見地のみではなく、分権的システム、多目的システムの見地から新しい意思決定の方法論を考えている。そのために従来の数理論計画法のみならず、人間の意思決定能力を利用した対話型の計画法をも研究している。制御では、加える位置が可動な操作入力を持つ分布定数系の最適制御を研究している。

当研究室の特色は制御とORの問題を区別していないことであろう。現在手がけている応用問題には、生産活動と環境保全の多目的問題、工業・社会システムの生産計画・資源配分・物質輸送の給合システム制御、事故を考慮したコンビナート群の設計問題、植物工場の制御と野菜の生産スケジュールの複合問題などである。実際問題の学習から、たとえばいろいろな新しいタイプの、しかしそれ自体数学的な多品種ネットワーク流れ問題を学ぶことができる。

日本電信電話公社
東海電気通信局データ通信部 牧野 明友

忙しさの表現方法 わが社が数年前からはじめたデータ通信のユーザー訓練を担当しているが、ユーザーである会社の仕事の都合、受講者自体の都合、データ通信を提供するわが社の方針、講師の個人的な都合、交通ストライキなどいろいろの要因のため、訓練コースの設定時期、訓練設備数、講師数などの決定、確保に苦勞している。

ユーザー訓練という仕事は一般事務とちがってきめられた時間割にしたがって授業をすすめるなければならないこと、何か月も前から予約している多数の会社から受講者がきているので講師が不足すると急に休講したり延期

することができないことなど経験のない人には十分理解してもらえないようである。むずかしい数式を使う理論は必要ないが、だれにでも納得してもらえ説得力のある忙しさを表わす方法はないものかと思っている。

足利工業大学
経営工学科 矢部 真

交通システム部会へどうぞ 1976年3月31日付で国鉄退職後に在職した新日鉄を退職しました。今後は'73年に発足した上記学科主任教授を軸に、東大・法政大・工学院大の講師も兼ね、学生の教育・指導のほか、ライフワークである「交通システムとOR」の研究をつづけるつもりです。

新日鉄では生産管理部嘱託で当初2年間の契約でしたが、IFORSの関係もあって2倍の期間となりました。のんびりした話ですが、入社するまでわが国の鉄鋼技術が新幹線同様世界1であることを知りませんでした。1つには家電・自動車と異なり一般消費者になじみの薄い基幹産業であること。もう1つには、他業界に劣らずORが活用されているにもかかわらず、業界の団体内でのグループ活動が多く、例外を除いて学会などで発表されたり、理事以上になる方が皆無といつてよいくらい少ないためでしょう。業界を代表してと思いますが、この4月27日午後、第1回日本OR学会OR実施賞が新日鉄に授与されることを退職後知りひそかに喜んでいる1人です。

ところで、学会では浅学菲才にもかかわらず「交通システム部会」の主査を2年間やらせていただき、もう1年間だけ延長が認められました。各界の有能な方が月1回わずか2時間ですが、(第3金曜 18.00~20.00、東洋経済新報社)参集し、情報交換を主にして研究活動をつづけております。主査としての、悩みのタネは手法中心の部会でないこと、機関別にタテ割りが強くハード中心で進んできて総合的な見方がなされていないこと、メンバーが多忙なため協同して演習問題がやれないことなどです。

定員数があるわけでもなく、希望される方は富沢健一幹事(KKジャステック ☎407-2172)までお申込みください。毎回10名内外参集しています。メンバーの方に主として話していただいて、討論、ときには文献紹介など、出身学科・職業はうかがいますが、出身大学などは不要です。